



会報 防災だより

2009
VOL.2
3月31日発行

CONTENTS

1. ご挨拶	会長 大黒 裕明	2P
2. 視察研修会に参加して		2P
3. 当協会と八戸地区消防団幹部による合同研修会		4P
4. 災害時要援護者支援事業		5P
5. 活発な各ブロック主催事業		5P
6. 防火管理に関する講習会開催		6P
7. 防災士研修講座		6P
8. 住宅用火災警報器を設置しましたか？		8P
9. 設立記念ジャンパー作製		8P

題字揮毫 大黒会長

ご挨拶



八戸地域防災協会

会長 大黒 裕 明

防災日より第二号をお届けします。

今年は何年初に断水騒ぎがあり、不自由なお正月を過ごされた方も多いのではないかと存じます。災難というものはいつ起きるか全く予想できないということが再確認された日々ではなかったでしょうか。

日本人は昔から、清澄な水はどこでもふんだんに、ただで手に入ると思い込んでいる節があります。今こそ環境や資源について考え直そうという人が増えてはいますが、頭では理解できても長年の習慣が簡単に改善されるものでもなさそうです。だからトイレを流すのと炊事や料理に同じ水道の水を使って何の疑問も覚えず、終わると汚れの激しい水や油まで下水に流し去って綺麗になったと安心し、その裏でどれだけの労力やコストが使われているかは余り頓着しないのです。

同じことが安全や安心ということにも当てはまります。伝染病や災害に対する備えは行政や他人が行うものと勘違いし、流行り風邪にかかったり道路や通路で転んだりすると市町村や建物管理者のせい

だと主張する方がいらつしやいます。もちろん行政や大きな組織でなければできない備えもたくさん

ありますが、まずは個人が自己の健康を管理し歩くのに注意をするという心がけがなければなりません。私達の事業所でも同じことで普段から防災の意識を高め、火事や災害に遭わないように、万一遭ったとしても出来るだけ損害を少なくするためにどうしたら良いか情報交換も含めお互いに啓蒙しあうのが当会の趣旨なのです。そして同時に災害への備えについて地域の皆さんにも訴え、必要があれば行政に要望を出すこともあります。

昨年は当会の会員から三名の防災士を養成することが出来ました。防災士は災害についての深い知識を持ち訓練を積んだ民間のボランティアで、阪神淡路大震災の教訓から生まれた制度です。また認知度も高くなり組織も未完成ですが将来必ず当地域の防災に大きな力となっていたいただけるものと期待しています。

本年度が当地域にとって、安全で安心な一年であるようお祈り申し上げます。



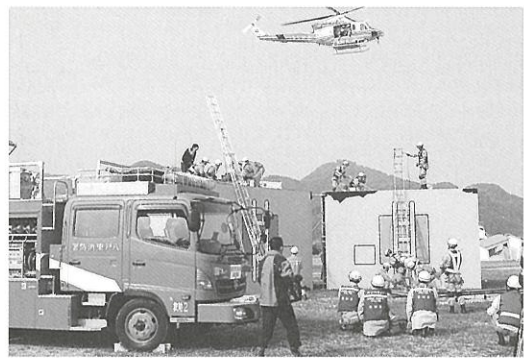
視察研修会に参加して

工藤 美 登

(総合リハビリ美保野病院)

凛とした寒さの中で、八戸葦毛崎展望台よりの黄金に輝く初日の出に手を合わせ、蕪嶋神社では「株かぶ」の上がるお守りをいただき、更に欲張りまして、長者山新羅神社・櫛引八幡宮へとお参りしました。改めまして新春のお慶びを申し上げます。

また、正月早々八戸圏域で断水となりました。想定外とは申せ、8万8千世帯に及ぶ大規模断水に、地域の方々、帰省客等には大変困惑されたことと思います。お見舞い申し上げます。



さて、昨年10月15日・16日の2日間、秋田県大仙市で行われた「緊急消防援助隊北海道・東北ブロック合同訓練」の視察研修に参加させていただきました。八戸地域防災協会発足後初めての1泊研修で、当協会大黒会長、八戸消防本部橋本次長様はじめ30余名参加いただいたのバス旅行となりました。

研修2日目の16日は爽やかに晴れ上がり、会員には協会設立にあわせ作成したマーク入りのウインドブレーカーを着用、会場へ向かいました。

緊急消防援助隊は、被災地の消防力のみでは対応困難な大規模地震、特殊な災害の発生時に消防庁長官の指示等に基づき出動し、現地で部隊編成された後、災害活動を行っております。この緊急消防援助隊の部隊の技術及び連携活動能力の向上を図るため、新潟県を含む北海道・東北8道県持ち回りで、毎年実践的な合同訓練を実施されているとのことです。

この度は、各緊急消防援助隊による消火・救助・救急等部隊運用

訓練を視察しました。各種訓練が行われた中で、私、医療関係の仕事に従事していることから、特に興味を持った訓練が特殊災害救助訓練でした。想定は塩酸搭載車両が信号機に激突塩酸流出。宇宙服のような防護服を身につけた特殊災害救助部隊には、現場到着とともに放水による塩酸の希釈を行い、倒れている人を次々除染テントに収容・処置の上、救急車そして消防防災ヘリコプターで指定医療機関へ移送された本番さながらの訓練が行われました。

また、緊急消防援助隊について

視察研修会に参加して

八田 峰 宗

(株式会社ニュー八)



今ほど、国内外共に安心安全の言葉が飛び交い、非常に不安要素が一杯の世の中である。当社も多分に漏れず食を商う者として、消費者の安心安全には細心の注意を払い、衛生管理の強化徹底を心がけている昨今である。

さて昨年晩秋、平成二十年度消防庁緊急消防援助隊 北海道・東北ブロック合同訓練が秋田県で開催され、八戸地域防災協会も研修参加した。消防職員の皆様は昨

広く一般に周知するため、東京消防庁ヘリコプター、札幌消防局ウォーターカッター車、大型プロアー車などあまり目にするのではない車両等が展示されておりました。おわりに

当初申し上げた想定外断水事故とか想定外の災害が、いつ・どこで発生するかわかりません。緊急消防援助隊には、いつでも迅速かつ的確に活動できるよう、各県の部隊が結集して訓練され、災害から人的・物的財産等を守っていただいていることに感謝申し上げます。つ帰路につきました。

での災害救助等、日頃訓練に訓練を重ねた成果を見学させて頂き、皆様のご努力の上に、私共の安心安全が確保されていることに、改めて敬意と感謝の気持ちで胸が一杯になった。

又会社とし、一人家庭人として災害を最小に食い止めるべく予防管理の必要性を身に沁みて考えさせられた一日でもあった。

さて世の中暗いニュースの多い中、笑いが一番と、伊奈かつべいさんによる忘年反省会が行われ、来年に向けて明るい安心安全な八戸市でありませうと願いを込め一年間のご苦労を楽しい反省忘年会を閉じた。

さてさて災害は「何時でも何処でもやって来る」、本当にびっくりの年明けであったが、水の大切さ有り難さ、又日頃の災害に対する準備のチェック等、大きな反省ができたと思う。

いい意味での「二年の計は元且にあり」と前向きに力強く新年のスタートが切れた年明けでもあった。

又、今までの私ですと消防署イコール火事という概念しかなかったのだが、この研修を通し皆様の多岐に亘り自分の命をかえりみず、果敢に災害の救助に最大の努力をされていらっしゃる勇姿を拝し、市民の皆様は「市民の安心安

全は消防署様のお陰」と、声を大にしてお伝えして参りたいと決意し、限りないエールを送り感謝に

変えさせて頂く。有難うございました。

八戸地域防災協会研修会に参加して

川井 俊子

(西越保育園)



初秋、十月十五日、十六日の両

日秋田県大仙市で行なわれる緊急消防援助隊、北海道・東北ブロック合同訓練を見学のため八戸市庁前よりバスにて出発する途中横手市にある秋田ふるさと村にて昼食を取る、ふるさと村内は料理館、ふるさと市場、ふるさとみやげ館、工芸展示館、手づくり工房、工芸工房、ワンダーキャッスル、おまつり市場などがあり家族で楽しめる村になっていている私は子ども達とゆつくり一日を楽しみたいなあと思いつつ時間を過ぎました。秋田県立近代美術館はふるさと村の中にあり近代的ですばらしい建物で当日は秋田県出身女性画家の作品が展示されており皆さんと一緒に見学をさせていただきました。

二日目は良い天気私は胸を弾ませてホテル前よりバスにて合同訓練場所雄物川河川緑地運動公園へ着く、公園は太陽の光で緑色の芝の上にオレンジ色の各県の隊員宿

泊施設用のテントが並んで美しい、その先に大きいテントが立ち並び大勢の人々の姿が見え土手にも見物人が所せましと坐っていた。アナウンサーの音が聞こえるさあ急がないと自分の気が自分をつまらせるテントの中に椅子が置いてあるので皆さんと一緒に後ろの席に坐る。訓練は情報収集、情報電送訓練、アナウンサーの音が天空を響かせている、多重救出救助訓練は救急車のサイレンの音、ヘリコプターの音、アナウンサーの音と激しい音がひびき椅子に坐ってられない思いだった。

第一ステージ、八番、列車横転事故救出救助訓練へ青森県隊は八戸消防本部隊員達の出動でした。ヘリコプターの音、救急車のサイレンの音がひととき高く聞えた。隊員達のきびきびした動作、私は専門的なことはわかりませんが椅子から立ち前に出て見学した。やっぱり青森県隊が一番だ、子ども達

に見せてやりたいなあ……と思っ
た、私は感激をして見ていた、今
日のすばらしい救出救護訓練は今
までの苦勞のたまものだろう、「こ
ころうさま」と大きい声で叫びた



視察 研修

山岸 武男

(株式会社 ラクウ)

いい思いだった。今回の研修会に参
加させていただき感激したり感謝
したりの良い研修会でしたありが
たうございました。

防災だより発行にあたり、昨年
10月15日、16日(1泊2日)にわ
たり行われた視察研修参加に伴い
感想を述べてさせていただきます。

今年度、消防外郭三団体が統廃
合し、八戸地域防災協会としては
じめての視察研修を計画され参加
させて頂きました。

今回の視察研修は『緊急消防援
助隊、北海道・東北ブロック合同
訓練』が10月15日、16日に実施さ
れた訓練の視察が目的でした。こ
の訓練は、先に発生しました阪神・
淡路大地震の教訓をもとに、被災
地だけでは対応しきれない大規模
災害発生時における人命救助・応
急救護活動を、より早く効果的に
行うことができるよう、全国消防
機関が相互に応援する体制づくり
のため、平成7年6月に発足され
たそうです。

この合同訓練は総務省消防庁等

の主権により、全国を6つのプロ
クに分け、平成8年度から毎年行
われているもので、地域の実情に
あった想定のもと、8道県(北海
道、新潟県含めた東北7県)の消
防機関と各自自治体、陸上、航空自
衛隊、東京消防庁などの関係機関
とが密接な連携をとりながら、実
践的で高度な訓練を実施すること
だそうです。

訓練内容として「①情報収集訓
練、②情報電送訓練、③情報伝達
訓練、④部隊参集訓練、⑤図上訓
練、⑥野営訓練、⑦夜間訓練、⑧
部隊運用訓練」と多彩にわたり行
われました。

平成18年度は青森県八戸市(ポー
トアイランド)で行われ、その時
も訓練を見学させて頂きました。
まさに地域の実情に合った訓練だ
と思えました。

今回開催されたところは、
秋田県大仙市(花火で有名な旧大
曲市)の雄物川河川緑地運動公園
で行われ、青森県からは7機関(青
森、弘前、八戸、十和田、五所川
原、北部上北、県防災航空隊)各
地域広域消防本部から55名の方が
参加され総勢713名で実施され
ました。

私達の一行は2日目(16日)に
行われた「部隊運用訓練」を9時
11時まで見学させて頂きました。

部隊運用訓練とは各種災害事故に
おける「出動、救助、救援、消火」
等の対応訓練でした。各訓練とも
当然のごとし真剣に取組んでいる
姿を拜見し感動して参りました。
このような訓練を視察した中で得
たことをどう活かすかだと思いま
す。

これからもこのような訓練が行
われる際、積極的に出向き習得し、
万が一に備えられればいいなあ
と考えております。

今回の視察見学に29名の参加し
ていただき、大型バスにて15日、
八戸市庁前9時出発し、高速道(八
戸、東北道)を経由し、北上市か
ら秋田道に入り横手市で昼食後、秋
田ふるさと村の秋田県立近代美術
館、工芸展示館、ふるさと市場」
を見学し、同市内のホテルに宿泊
し、懇親会では和気あいあいの下、
楽しいひと時を過ごさせて頂きま
した。

2日目(16日)は8時にホテル
を出発、訓練会場(大仙市)へと
移動し、先に述べました訓練視察
を終え、午前11時ごろ会場を出発、
角館市に到着、昼食後に「角館武
家屋敷」を自由散策し、盛岡経由
で午後7時ごろ八戸に帰って来ま
した。

また、今回防災協会として第1
回目の企画として会員の方々に参

加要請のご案内を申し上げたそう
ですがよく趣旨がわからなかった
こともあって参加人数が少なかつ
たかと思えます。

参加されました皆様の意見を総
合しますと有意義な視察研修でし
たと皆さんおっしゃっていました。
今年度もまた計画されると聞いて
おりますが会員相互の意思の疎通
を図る意味で多くの参加を楽しみ
にしてまいります。

事務局にありましては企画、準
備等にご尽力して頂き誠にありが
たうございました。

当協会と八戸地区 消防団幹部による 合同研修会

平成二十年十二月十六日(火)
八戸パークホテルにおいて、伊奈
かつべい氏を講師に招き、演題「燃
ゆる思い 消して忘れない」と題
して一時間の講演を頂きました。
会員・消防団幹部併せて二百七十
七名が聴講し、テレビ、ラジオで
のとおり軽妙な語り口に、聴講し
たものみな感激と笑いに包まれて
いました。その後、会場を移し伊
奈氏を囲みながらの懇親会を開催
しました。



活発な各ブロック主催事業

◎八戸消防署管内

自衛消防活動

自衛消防活動競技会を、平成二十年九月二十六日(金)、八戸市屋内トレーニングセンターで開催し

消防技術を競い合いました。

競技は、火災現場を想定し、一九番通報・担架搬送・初期消火等緊急時の活動の迅速さと正確さを四人一組で競い合うもので、四十七事業所、七十八名が参加しま

災害時要援護者支援事業

消防本部のご協力により、二十年十月二十八日(火)から三十日(木)までの三日間、高齢者世帯・視覚不自由者等の身体障害者世帯などに、住宅用火災警報器の寄贈設置を実施しました。

この活動は、旧防火管理者協会及び旧消防設備協会が昨年実施した活動を引き継ぎ、社会福祉事業の一環として実施したもので、災害援護者世帯に警報器を設置し住宅火災からの犠牲者を軽減することと併せて火気使用器具、電気器具、水廻り等の点検整備を行うことにより、地域住民の防火意識を啓発して、災害のない明るい街づくりを推進することを目的に実施したものです。

今回は、三日間合わせて十班編成で、八戸市、階上町及びおいら



せ町の八十九世帯に対し、警報器の寄贈設置と火気使用器具等の点検整備などを実施しました。来年度以降も、管内全市町村を対象に計画的に実施する予定です。ので、ご協力をお願い致します。

した。

表彰式後、大黒会長から「沢山の会員からご参加頂き盛会に終わることが出来ました。今日体験した知識、技術を職場に広げて下さい。真剣な訓練大変ご苦勞様でした。」との労いの挨拶があり、競技が終了しました。

その後、八戸パークホテルに会場を移し懇親会を開催、杯を交わしながら互いに健闘を称え親睦を深めました。厳正な審査の結果、成績は次のとおりでした。

◎最優秀賞

・第二ワシントンホテル・エプソンアトミックス・岩徳・尻



内保育園混成チーム

・東奥日報・大平洋金属・八戸火力発電所・南部バス混成チーム

◎優秀賞

・八戸プラザホテル・ジャパンオイルネットワーク八戸油槽所

・八戸臨海開発・南部バス混成チーム

◎優良賞

・東奥日報・大平洋金属・八戸火力発電所・南部バス混成チーム

◎八戸東消防署管内

普通救命講習会

管内三十三事業所六十一名が参加して、平成二十年九月十二日(金)、シーガルビューホテルで普通救命講習会を開催しました。

講習会は、救急救命技術の習得と、救急車が到着するまでの間の適切な対応を身に付けるため実施したものです。

受講者は、救命観察、救急人形を使用しての人口呼吸、心臓マッサージなど、救急救命の知識、技術の習得に三時間真剣に取り組み、全員が修了証の交付を受けました。

講習終了後、名久井副署長から労いの言葉があり、会場を移して

懇親会を開催し親睦を深めました。

懇親会々場では、受講者の一人が「救急救命処置を身近なものに感じました。少しは自信をもてました。今日の講習は大変有意義でした。」と話していました。

◎三戸消防署管内

視察研修会

三戸消防署管内では、平成二十年九月十七日(水)、十三事業所、十四名が参加して、青森県立三沢航空科学館・六ヶ所原燃PRセンターの視察研修会を実施しました。

視察終了後、スパハウス「ろっかほっか」に会場を移して懇親会を開催し、親睦を深め大変有意義な一日を過ごしました。



◎五戸消防署管内

視察研修会

五戸消防署管内では、平成二十年十月六日(月)、五戸地区婦人消防クラブ連絡協議会と合同で、視察研修会を実施しました。

防災協会から十一事業所十三名、婦人消防クラブから十名合わせて二十三名が参加しました。
当日は雨でしたが、バス内で鈴木理事のあいさつのあと、東通村に向い出発しました。

東通村防災センターでは、笹沼防災専門官から原子力災害に対する防災対策についてスライド等で説明して頂きました。

その中で、もし原子力災害が発生すれば、いち早く原子力災害合同対策協議会が設置され、リアルタイムで総理大臣とディスカッションすることにはビックリさせられました。

続いて東通原子力発電所PRトントウビレッジを視察、原子力発電所の概要と必要性を学びました。その後、スパハウス「ろっかほっか」に会場を移して懇親会を開催、大変充実した一日を過ごしました。

八戸北消防署管内では、平成二十年七月十五日(火)に会員二十一名が参加し、視察研修を実施しました。

◎八戸北消防署管内

視察研修会

八戸北消防署管内では、平成二十年七月十五日(火)に会員二十一名が参加し、視察研修を実施しました。

防火管理に関する講習会開催

402名が防火管理の資格取得

平成20年度の防火管理に関する講習会は、受講希望者が多かったことから、7月8日(火)・9日(水)(於：プラザアーバンホール)と8月28日(木)・29日(金)(於：ウエルサンピア八戸)での2回開催されました。

消防法により、一定規模以上の防火対象物は、防火管理の資格を有する者を防火管理者として定めることとなっており、その資格を与えるための講習会を八戸消防本部が開催し、当協会もお手伝いしました。

講習会では、甲種防火管理新規講習384名、乙種防火管理講習18名、合わせて402名の方が受講し、防火管理者の資格を取得しました。

新たに防火管理の資格を習得された方々には、これからも、防火管理体制の充実、強化にご尽力されますようお願い致します。



青森県立美術館「人体の不思議展」、三内丸山遺跡「縄文文化」、青森県防災航空センター「防災ヘリコプター」の視察を行いました。

防災士研修講座



防災士研修講座に参加して

金正夫

(三菱製紙(株)八戸工場)

昨年9月20日から22日までの3日間、青森市の「アピオあおもり」にてラビアの佐藤さん・八戸液化ガスの石鉢さんの3人で研修に参加して来ました。

そもそも防災士とは何なのか全くわからない状態で、しかも研修前に宿題を与えられ必死で勉強しましたもののはっきりと理解出来な

いままの参加でした。
演習以外の講義は大体がスライド写真を見ながらの説明です。
講師は各分野の専門の先生方で直接災害現場に携わっているので、報道では聞くことの出来ない実情、

見ることに出来ない映像を見せられ、災害の悲惨さを嫌になるほど知らされた3日間でした。
そして日本は地震・火山活動・土砂災害は当たり前前の国だという認識を新たにしました。

1日目は、阪神・淡路大震災と中越地震による被害状況の写真を

見せて頂き災害規模の大きさ悲惨さを目の当たりにしました。
阪神・淡路大震災では都市防災ということで、耐震診断・補強、家具の固定方法等実験内容を見せて頂きました。特に家具の固定方法一つで命が救われるということ

2日目はグループによる「避難所の開設と運営」という演習がありました。これは、災害が起きた時に学校の校舎を避難所にした場合、被災者の人達が避難生活をいかに快適に過ごせるか部屋割りの演習です。

最終日には「ハザードマップと災害図上訓練」の演習です。ある町の地図を広げどのような災害が予想されるか討議し、さらにその災害の被害を小さくするにはどうしたらよいか対策を考えるところという演習です。この演習でわかったことは災害を想定し、さらに被害を

小さくするためには、自分の住んでいる町を知らなければならぬということでした。

災害が発生した場合、公的支援機能の消防・警察・自衛隊の救助は制限されます。役所の職員も被災してきますから対策本部が設置されるまでは相当な時間が掛かるはずで、そういう時に近隣地域の人々の救援が大いに期待できません。みんなが協力し助け合おう力です。今回、災害の一般的な知識及び防災の基本的知識を学び、かつ災害時において積極的にその場で防災活動を行うことを期待されているのが我々防災士です。

災害・被害をいかに小さくするか、そのためには何をすればよいのか？

まず自分の身近な所から災害の

発生を想定し家具の固定方法・配置換え、避難場所の確認をし、家族として職場のみんなまで万が一の時に備え話し合いをしましょう。

最後になりますが、講義の中に防災訓練の話が出てきて、訓練のための訓練では役に立たないあくまで実際の被害を想定することが必要と言われ、これまで自分が計画・実施してきた防災訓練の中身の薄さにショックを受けました。これからは防災士として学んだことを地域・会社でリーダーシップを発揮し、地域の「防災力」向上、「防災企業」を目指して取り組んで参ります。

今回、防災士養成講座に派遣して頂きました八戸地域防災協会の方々に厚くお礼申し上げます。「有り難うございました」



防災士養成講座を受講して

石鉢 剛
(八戸液化ガス株式会社)

今回の講座では、あらゆる災害のしくみや被害、その災害の対策について多くの事を学びました。又、防災士の活動する場面、基本的な役割なども学びました。一番印象に残った事は、被災した時は「死んではいけない」という事で

発生を想定し家具の固定方法・配置換え、避難場所の確認をし、家族として職場のみんなまで万が一の時に備え話し合いをしましょう。最後になりますが、講義の中に防災訓練の話が出てきて、訓練のための訓練では役に立たないあくまで実際の被害を想定することが必要と言われ、これまで自分が計画・実施してきた防災訓練の中身の薄さにショックを受けました。これからは防災士として学んだことを地域・会社でリーダーシップを発揮し、地域の「防災力」向上、「防災企業」を目指して取り組んで参ります。

倒れた家具の下敷きになり窒息死・圧死でした。つまり、倒壊しない家に住む、家具を固定する事です。又、倒れた家具で逃げ道を失い焼死した人も沢山いたそうですので避難路の確保も重要です。私も早速家の家具を全て固定しました。もう一つ大切な事は、「自分の命は自分で守る」(自助)、「自分達の町は自分達で守る」(共助)という事は



「防災士」のこと

佐藤 丘
(ラピア)

八戸地域防災協会からの特命で、『防災士』の資格取得のために青森市で三日間、ほとんど缶詰状態で講義を受けたのは去年の九月のことであった。

受講の一カ月前にテキストと一緒に送られてきた予習のための問題集。分厚いテキストと首つぴきにならないとわからない。この問題集が終了していなければ、受講できないのだからいやでもやらざるを得ない。問題はそれほど難しくはない。テキストをちゃんと読めばわかる問題ばかり。ただ、その量と文字の小ささに参ってしまった。解答用紙に書き込むのに眼鏡をはずさないと書けないので

です。災害の規模が大きければ大きい程、公的支援(消防、警察、自衛隊など)の機能が制限されるからです。災害はいつやってくるかわかりません。いつ災害に遭遇してもいいように日頃から準備し、被災したら地域で活動して、防災士としての役割を果たしていければと思っております。

ある(何しろ五十を過ぎてから、老眼がすすんですんで手に負えない)。大変な苦行でありました。さて、当日。時間割を見ると東大の先生だのどこそこの先生だの、偉い先生ばかり。講義についていけるかどうか、老眼と同時に脳味噌の硬化も生半可ではないから、いささか不安になった。

ところが、テキストはほとんど開かずですんだ。面白いのですよ、講義が。災害の話が聞かされているのだから、面白いと言うのは的確ではないのだが、別な言い方をすれば、三日間飽きずに聴講できたのである。眠くなる暇などなし。

阪神・淡路大震災、新潟中越地震、三宅島や有珠山の噴火、インドネシアの津波、岩手内陸地震、活断層、火山などなど、知っているようで知らない話ばかり。さらに避難所の開設・運営の仕方まで、本当に内容の濃い三日間でありました。

そして最後に試験。三十問中七割正解で合格。一週間後、一緒に八戸地域防災協会から受講した三人に合格通知が届きました。

では今、八戸や近隣で大規模災害が起きた場合、自分が防災士として果たした的確な行動がとれるか？それ以前に勤務先の従業員に防災の意識付けをどうすればできるのか？防火管理者の立場で防火意識を高めるのにさえ四苦八苦している状況で、どれだけのことができるのか？家族はどうなのか？町内は？街は？

災害に見舞われたとき(天災であれ、人災であれ)私達はどう行動すればいいのか？課題は山積している。



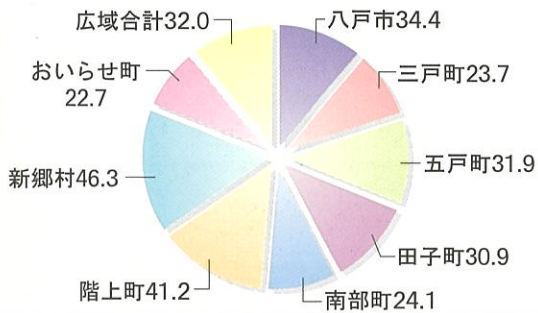
住宅用火災警報器を 設置しましたか？



すべての住宅が

平成20年6月2日から義務化!!

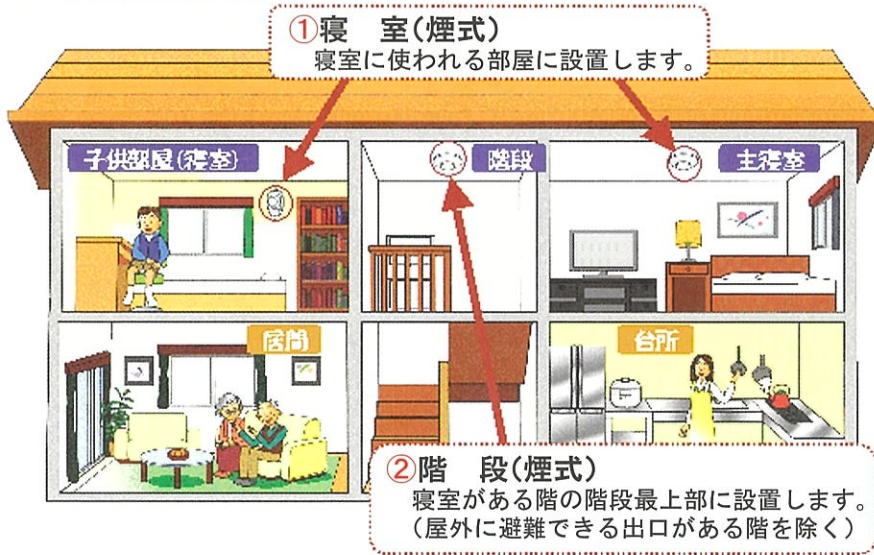
平成20年10月26日現在 市町村別普及率(推計)



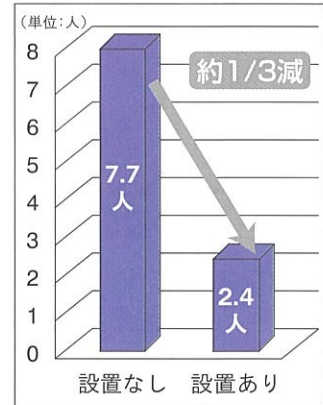
平成20年10月26日現在、八戸消防本部管内の住宅用火災警報器の普及率は32.0%となっております。市町村別に見ると、最も高いのは新郷村の46.3%、最も低いのはおいらせ町の22.7%です。住宅火災による犠牲者を出さないための切り札である「住宅用火災警報器」を早期に設置しましょう。

また、設置したご家庭には、当協会作成の「設置済シール」を配布し、玄関先に貼付をお願いしております。貼付をしていない会員の方は、最寄の消防署から貰い、玄関先に貼付しましょう。

※次の場所に設置しましょう!!



火災警報器の効果



住宅用火災警報器の設置と住宅火災100件当たりの死者発生率(H18年・総務省消防庁)

設立記念ジャンバー作製

八戸地域防災協会設立を記念し、ジャンバーを40着作製しました。

黒をベースとした胸元には協会シンボルマーク、背中には八戸地域防災協会の文字をプリントし、シックな装いとしました。

年間行事である視察研修会や災害時要援護者支援事業などに着用し、当協会の活動を広くPRしていきたいと思っております。

